



施工計画の検討

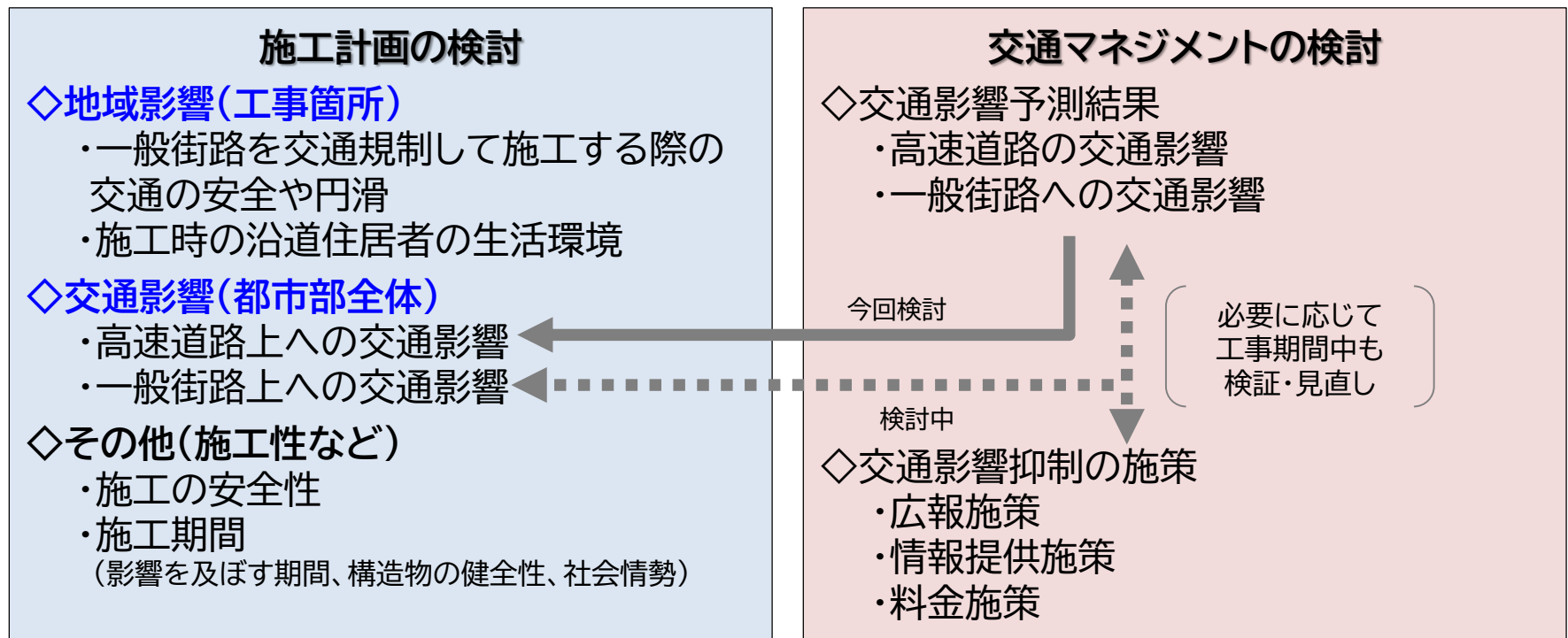
2021年4月30日

○大規模更新工事の実施に際しては、事業化検討段階から「実施時期」や「実施に伴う社会的影響の低減」などが課題と認識※。
※ H25.4.26 社会資本整備審議会 道路分科会 国土幹線道路部会(阪神高速道路(株)提出資料)

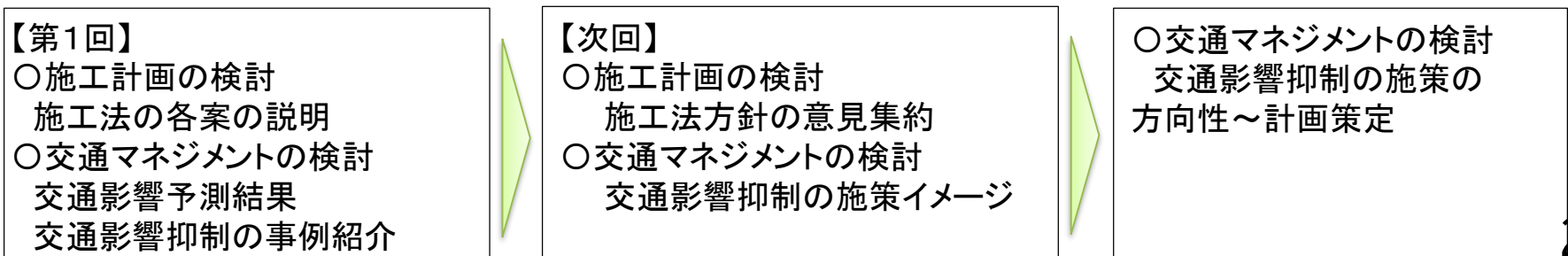
○昨年、6号大和川線が全線開通し、更新工事の交通規制等に伴う社会的(交通)影響の低減に活用しうる広域う回路が確保されたことから、当該橋梁の架け替えに着手すべく、詳細検討。

○詳細な調査検討を進めてきたが、大阪都市部全体への交通影響だけでなく、工事箇所周辺への地域影響低減も重要な課題であることを再認識。こうした観点で、複数の施工法を検討・評価。

検討・評価方法

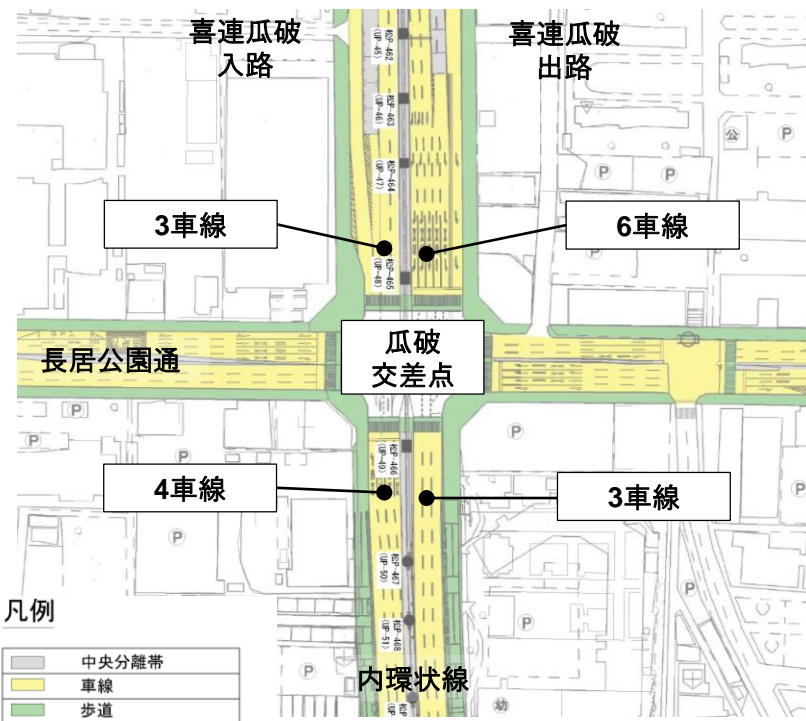
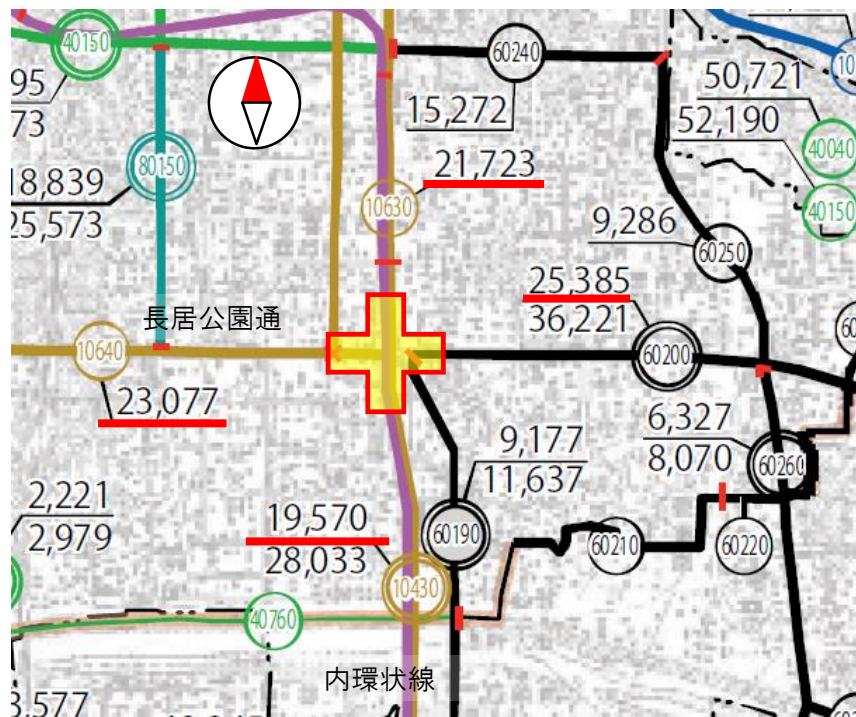


進め方

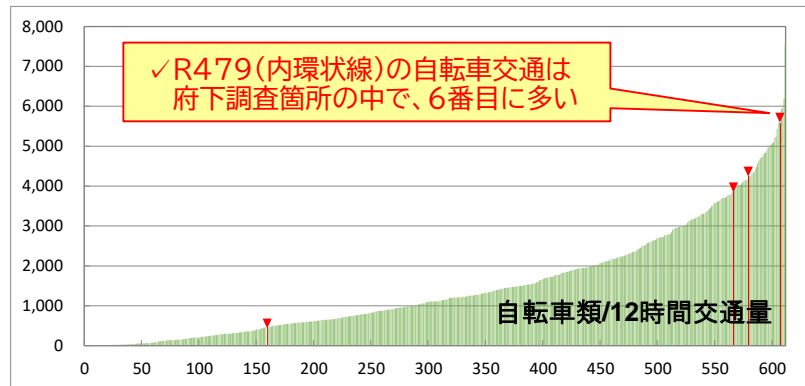
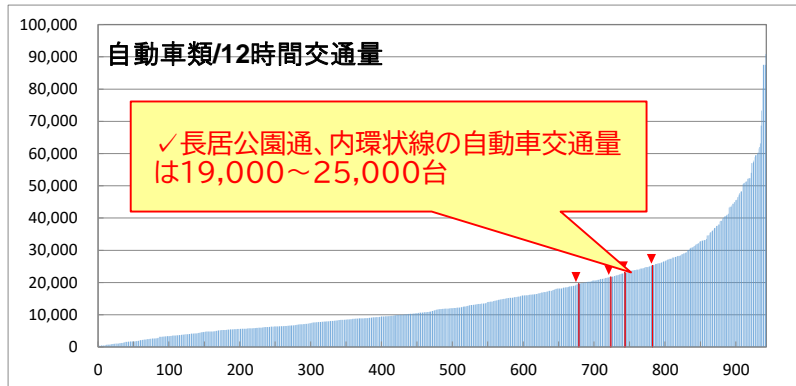


1. 工事地区の周辺概要

- 交差する長居公園通、R479(内環状線)の12時間断面交通量は19,000～25,000台程度
- R479(内環状線)の自転車交通は府下調査箇所の中で6番目に多い。
- H28年度大阪府交差点事故発生件数最多箇所(産経新聞大阪本社調べ。日本損賠保険協会HPより)



※ H 2 7 交通センサス・大阪府域の調査結果をすべて並べてグラフ化(高速道路調査結果を除く)



2. 施工法の検討

○事業許可時の「①迂回路案」に加えて、地域社会への影響を最小限にする観点から「②半断面施工案」および「③通行止め案」についても検討を行った。

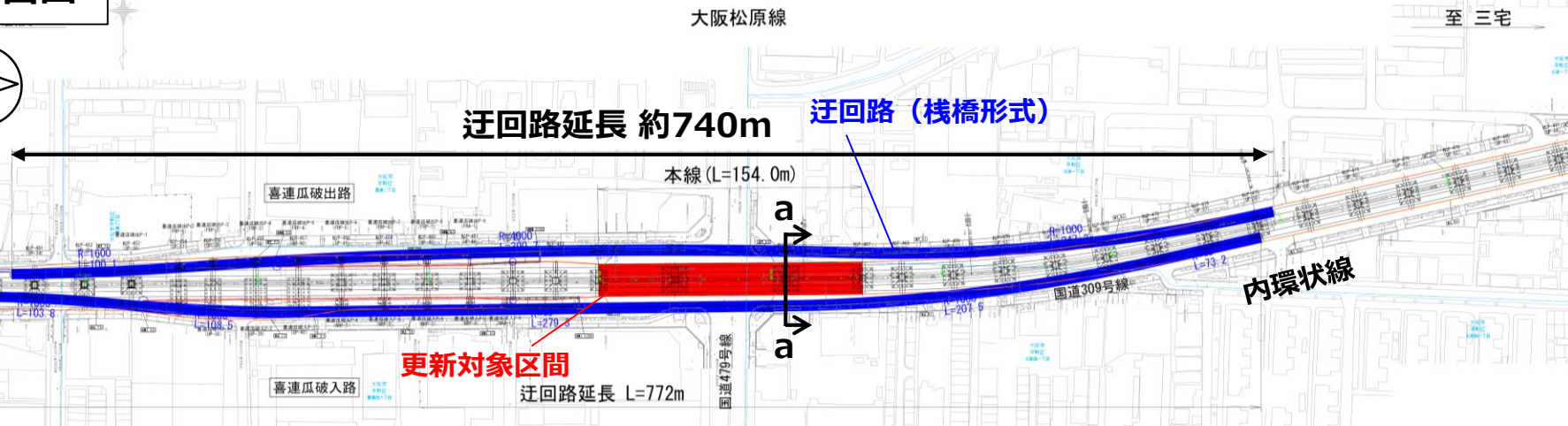
	①迂回路案	②半断面施工案	③通行止め案
平面図			
断面図			
施工概要	片側1車線の仮設迂回路を上下線に設置し、既設橋を撤去・更新	既設橋を上下線分割で車線運用しながら、半断面ずつ撤去・更新	喜連瓜破～三宅間の本線通行止めを行い、上下線一括で撤去・更新
高速本線供用	2車線（片側1車線）	2車線（片側1車線）	通行止め
喜連瓜破ランプの供用可否	×（不可）	○（可能）	○（可能）

※上記3案以外の検討案については参考資料に示す。

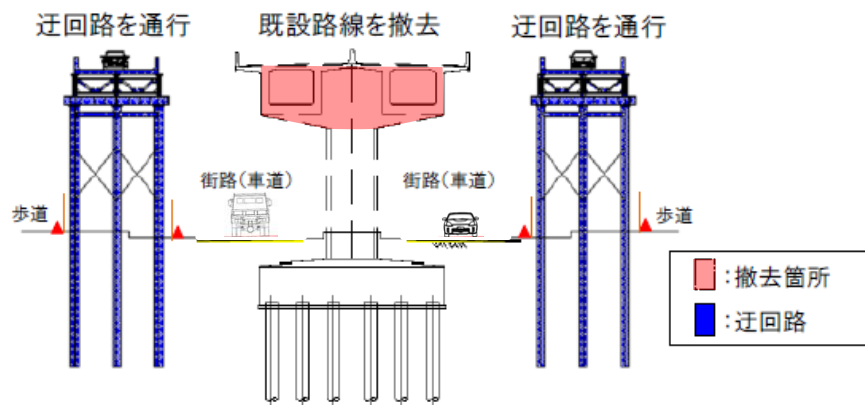
① 迂回路案の概要

○街路および歩道上に**栈橋形式**で片側1車線の迂回路（上下線）を構築し、高速道路の通行を確保した状態で、**更新対象区間**を撤去、再構築する。

平面図



断面図 a-a



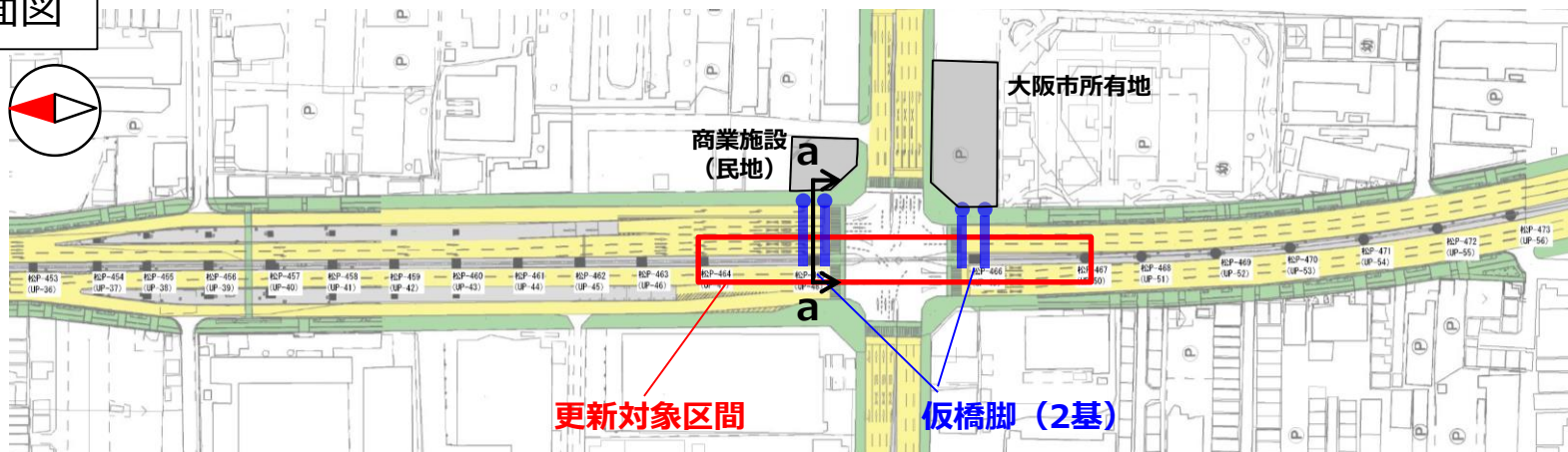
栈橋形式のイメージ

http://www.zenken.com/kensyu_annai/H17/kousyu_511/ko511_09.html

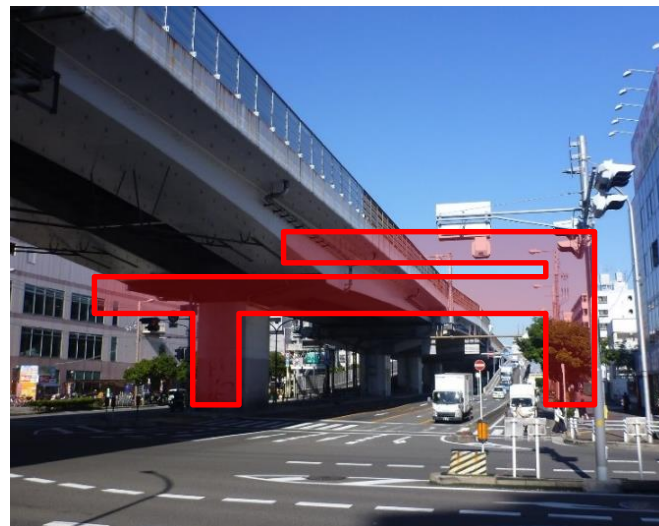
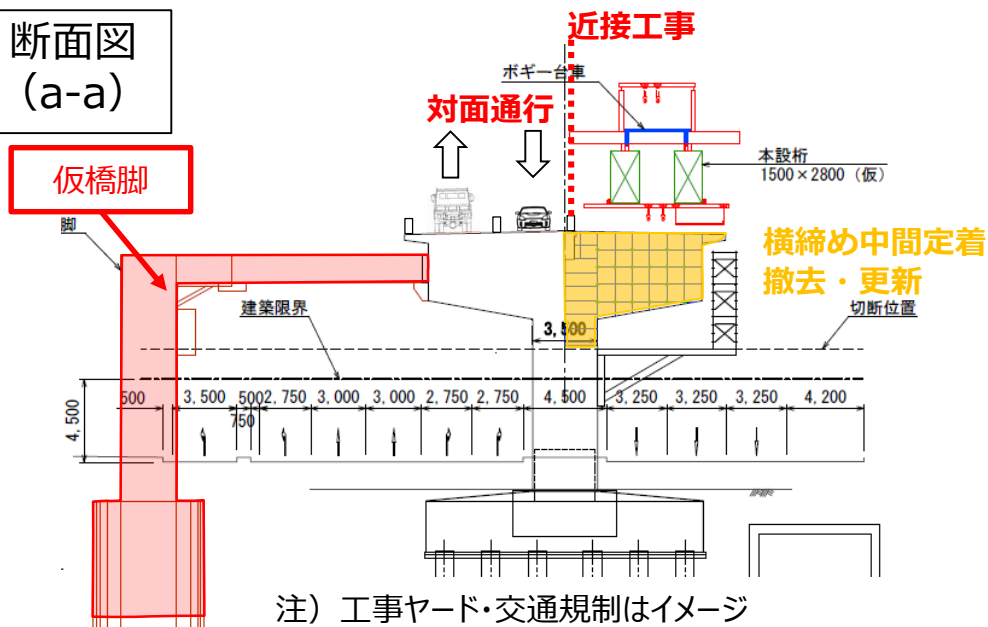
②半断面施工案の概要

○交差点南側・北側の歩道部及び側道部に**仮橋脚を設置**し、半断面を通行帯（片側1車線の対面通行）として利用しながら、**半断面ずつ撤去・更新**する。

平面図



断面図 (a-a)

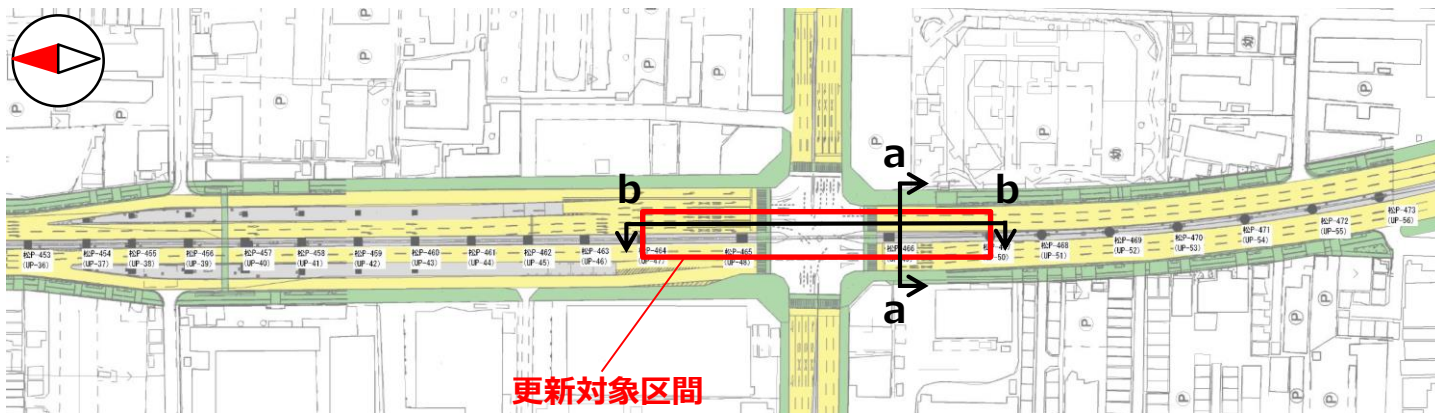


商業施設に近接する仮橋脚のイメージ

③ 通行止め案の概要

○ 高速道路を通行止めとし、高速道路上に設置した仮設桁からの吊り工法により既設桁を撤去し、新たな桁を架設する。

平面図



通行止め区間



更新対象区間の外観

		①迂回路案	②半断面施工案	③通行止め案
施工条件	平面図			
	施工方法	片側1車線の仮設迂回路を上下線に設置し、既設橋を撤去・更新	既設橋を上下線分割で車線運用しながら、半断面ずつ撤去・更新	喜連瓜破～三宅間の本線通行止めを行い、上下線一括で撤去・更新
	高速本線供用	2車線（片側1車線）		通行止め
	喜連瓜破ランプの供用可否	×（不可）	○（可能）	○（可能）
地域影響	生活環境	施工ヤードの確保のため、住居や店舗から車道へのアクセスが妨げられる。		高速道路から街路への交通の転換により周辺環境の悪化が懸念される。
	交通安全・円滑	<ul style="list-style-type: none"> 歩道幅員が狭くなり、高齢者や身障者等の交通弱者の通行に支障が生じる。 工事規制により交差点需要率が悪化し、交差点処理に支障が生じる。 		高速道路から街路への交通の転換により交差点需要率が悪化する。
交通影響	高速道路	<ul style="list-style-type: none"> 近畿自動車道の渋滞が延伸 松原線の車線規制による車線減少部で渋滞が発生 		<ul style="list-style-type: none"> 近畿自動車道や中国自動車道の渋滞が延伸 東大阪線、大阪港線の渋滞が延伸
	一般道路	工事規制箇所や、並行する南北道路等で渋滞が発生	工事規制箇所では渋滞が発生	工事箇所の周辺道路や、工事箇所（南北道路）の渋滞が発生
施工性		迂回路と距離を確保し施工可能	難易度が高く、供用中の車線への近接施工となる	通行止めのため問題とならない
工期		約12年	約10年	約4年 (本線通行止め期間：2.8年)